

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 竹中克行

1960年代から1990年代初めのスペインは、フランコ独裁から民主政へという政治的変革のみならず、人口の変動に表れる社会動態においても重要な転換期を迎えた。本研究は、1960年代の高度経済成長下のスペインで活発化した人の移動とその後の移動先での定着過程を人口地理学的アプローチによって分析し、スペイン人口が有する地域間および地域内の社会経済的格差の変動過程を両者の関係に注目しながら解明することを目的としている。特に地域人口が人口移動の影響を受けながら再生産され、職業的地位や居住環境といった地域人口に内在する重要な格差が変動する過程を、膨大な人口統計資料の綿密な分析に基づき実証的に提示している点に、本研究の特徴がある。

本研究は、序章と終章を含む8章からなる。第1章と第2章は、スペインの全国スケールでの分析である。第1章では、対象期間を通じて人口移動に生じた変化を検討し、1970年代半ばを境に、農村地域から都市産業地域への移動を伴う地方間移動から、都市間ないし都市圏内部の移動へと大きく転換したことを明らかにした。続く第2章では、平行して進んだ全国的な出生力低下の過程を通じて、出生力の地域差が大幅に縮小する一方、移動者に特徴的な出産行動により、人口流入を受け入れた都市は相対的な出生力水準の上昇を経験したことを明らかにした。第3章～第6章は、国内最大の産業地域を擁し、固有の言語を有するカタルーニャに焦点を当てた地域スケールでの分析である。まず第3章で、カタルーニャ人と流入者の概念化に関する論点整理を行い、第4章では、人口流入が地域人口の再生産に与えた影響を検討した。首都バルセロナの広域都市圏を対象とした分析の結果、当初明確に見られた出生力に対する出身地の影響は次第に低下していることが明らかになった。続く第5章では、人口流入が地域人口の職業構造に与えた影響を検討した。流入者とカタルーニャ生まれの職業的地位の差は明確に見られたが、その差はかなりの程度まで教育の格差に起因し、世代交代とともに縮小していることが判明した。第6章では、人口流入が地域人口の居住地構造に及ぼす影響について検討し、出身地の影響は居住の空間的パターンや居住環境の格差においても明確に認められるが、職業要因・ライフサイクル要因が影響を強めていることが明らかになった。

スペインの地域間に存在する人口学的な差異や社会経済的な格差は、人の移動と定着を通じて流入地域の人口の特徴の中に織り込まれている。しかし、こうした出身地集団間の差異や格差の構造は安定的なものではない。本研究で得られた最も重要な知見は、出身地集団間にみられる言語文化的な差異は、流入地域での出身地集団間の人口学的、社会経済的差異を固定化するものではなく、流入地域の中での出身地集団間の接触、人口流入そのものの減少と世代交代、社会経済構造の変動などにより、人口流入による地域人口のゆがみは急速に是正されていくことを明らかにした点である。こうした知見は、スペインに限らず、現代世界の多言語地域の社会動態に関して、言語文化的な差異の意義を強調する従来の見方に再考を迫るものであり、そのインパクトは大きい。本研究はそのアプローチにおいても、人口移動を軸に人口の再生産、社会的編成、空間的編成という、従来別個に扱われることの多かった領域を効果的に組み合わせ、人口地理学における社会動態分析の可能性を大きく広げた。本研究の成果は、多言語地域の社会動態の比較研究や、近年活発化している国家間の人口移動と人口の地域構造の変動との関係といった重要な課題に対しても、大きく寄与することが期待できる。したがって、本審査委員会は本研究が博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。